

## 杉本会長記者会見文字起こし

### (1 ページ)

それでは、改めまして、このたび会長に選任されましたロート製薬の杉本と申します。先ほど、副会長の皆さまと共にご挨拶をさせて頂きましたが、これからは新たに選任されました副会長、理事長、常務理事、そして新体制となった事務局の皆さまのお力を借りながら、協会活動を力強く前に進めていく所存です。ぜひ、ここにお集まりの皆さまには、これからの私たちの活動につきまして、なお一層のご支援とご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

それでは、会長就任にあたりまして、これからの抱負と活動方針についてご説明をさせて頂きます。

### (2 ページ)

本日の内容は、大きく3つになります。

1つ目は、2015年に公表し、2022年に一部改訂してありますグランドデザインの進捗に関するレビュー。

2つ目は、これからの協会活動に関する抱負。

3つ目は、今後の活動方針になります。

### (3 ページ)

このOTC医薬品産業のグランドデザインは、2015年5月当時、私が最初に会長就任した際に公表したものになります。

その後、環境変化に合わせて2回一部見直しをしていますが、ここに示しているものは、コロナ禍となった翌年に見直しをかけて改訂したものです。

コロナ禍で感染拡大や医療ひっ迫が起こりつつある中で、「セルフメディケーションが、人を守り、医療を守る」ことに貢献していくため、4つの環境整備と11の政策課題を掲げています。

### (4 ページ)

このフローチャートは、セルフメディケーション・セルフケアがどの領域に対応しているかを示したものになります。

中央あたりに青い太枠で囲っているところが、その領域になります。

改訂した時は、新型コロナ対応で、オンライン健康相談やオンライン診療が始まっており、そことの連携も視野に入れた調査をしていました。

その調査分析で分かったのは、オンライン診療の処方薬の大半（調査期間によっては9割以上）が解熱鎮痛剤、鎮咳去痰薬、抗アレルギー薬、皮膚用薬、整腸薬などOTC医薬品で対応できるものばかりだったことです。

#### (4 ページ続き)

実際に、オンライン健康相談では患者の症状を確認して、重篤な疾患の恐れがない時は、まずOTC医薬品を使って自宅療養することで、患者が出歩くことによる感染リスクを減らし、医療のひっ迫を防いでいました。

その後、政府から新型コロナ感染時、重篤化の恐れがない場合、まずは自宅療養を基本とする方針が発表され、新型コロナ抗原検査キットやコロナ・インフル同時検査キットのOTC化、医療機関で処方されていた解熱鎮痛薬から代替できるOTC医薬品のリスト化など当協会も協力して準備しています。

#### (5 ページ)

これは、2025年までに実現させたいセルフメディケーションの普及啓発による国民の健康医療に貢献したいことをイメージした図になります。

一番下に「セルフメディケーションが、人を守り、医療を守る」というテーマがありますが、中央時計回りの緑色のサイクルが、我々の活動のベクトルを表しています。

まず、左回りから、ライフステージに合わせた「ヘルスリテラシー教育支援」になり、生活者のヘルスリテラシーを高めながら、真ん中上にあるように、生活者に対して、既存のOTC医薬品は勿論、「スイッチOTCや検査薬の選択肢拡大」を実現していこうとしています。

## (5 ページ続き)

それにより、図の右側にありますように、生活者が「セルフメディケーションで自分の健康は自分で守る」ことを支援し、もし、少しでも重篤化の恐れがある時は、薬剤師など専門家の支援を得ながら、速やかに医師の診察が受けられる体制を守っていくことを目指しています。

そして、こういったサイクルは、日本だけでなく、海外、特に中国をはじめとする東南アジアでも同じようなニーズがあると考えられるため、日本のセルフメディケーションへの取組みは、海外への普及啓発にも力を入れていこうとしています。

## (6 ページ)

ここからは、2025年に向けたグランドデザインの途中経過になりますが、簡単なレビューをさせていただきます。

まずは、成果が出てきたことから説明します。

1つ目は、セルフメディケーション税制が、創設後5年目を機にスイッチOTC医薬品以外にも対象が拡大し、マイナンバーカードの普及と共に、申請手続きが簡素化され、活用しやすい制度となったことです。これについては、引き続き、活用実態を分析しながら、対象範囲の拡大を行ない、将来的にはすべてのOTC医薬品まで対象を拡大すること、そこには新型コロナウイルス検査など生活者が感染拡大防止と医療機関ひっ迫を防ぐための活用したOTC検査薬も含めていくことを提案していきたいと考えています。

## (6 ページ続き)

2つ目は、コロナ禍の中、医療機関や自治体などと連携したセルフメディケーションが普及してきたことです。こういった取組みは今後更に強化していきたいと思います。

3つ目は、日薬連を代表とする製薬業界あげての環境保全整備への取組みになります。環境保全整備は、健康産業として率先して取り組んでいく所存ですが現時点で、すでに産業廃棄物最終処分量と産業廃棄物再資源化率については、2025年を待たずして達成しており、あとは、カーボンニュートラルの実行に向けて取組みを進めているところです。

## (7 ページ)

ここに示したのは、現在、実現に向けて着手中のものになります。

1つ目が、生活者のヘルスリテラシー向上のための支援です。

すでに中高校生向けの「健康くすり教育資材」については、今年4月から当協会Webサイトでデジタル版の提供をスタートしています。

今後は、それを効果的に活用していくための情報提供、また新たに当協会内に健康教育プロジェクトが発足しており、そこでは、小学生から中高校生、大人などライフステージに合わせた健康三原則に基づくヘルスリテラシー向上に向けた支援に着手しようとしています。

### (7 ページ続き)

2つ目が、コロナ収束を見越したインバウンド需要への対応と越境EC強化です。これについては、各国の規制の違いなど様々なハードルがある中、国際委員会の国際展開支援部会で、中国WeChatでOTC医薬品のPR活動をスタートしており、近日、中国ECモールのジンドンでは会員企業による共同出店を予定しています。今後は、チェーンドラッグストア協会とも連携してPR活動をしていくことになっており、近日、改めてニュースリリースで最新情報をご案内します。

### (8 ページ)

ここでは、実現に向けて見直しをかけていることについてご説明します。

「OTC医薬品が活用される環境整備」は、当協会の活動ではまさに大変重要な位置づけにありますが、残念ながら、順調に進んでいるとは言えない状況にあります。但し、すでにスタートしていますアドバイザリーボードでは、こういった活動の見直しについて議論を進めており、当協会の独り善がりとならないように、医師会や歯科医師会、薬剤師会、健保連やマスコミ、生活者を代表する委員の皆さまとの議論を通じて、具体的な推進指標を担当行政と共に設定できるように仕切り直しをしています。

## (9 ページ)

次に、これからの協会活動への抱負について述べさせていただきます。

協会活動は、自分の健康は自分で守るというセルフケア・セルフメディケーションの普及啓発を目指し、それを実行する社会を作ることにあります。

その上で、私としては、大きく4つの**Key Word**をあげさせていただきます。

まずは、**Well-being**。これが意味するのは、「健康とは病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」です。いま協会活動で連携を探り始めているウェアラブルデバイスの健康モニタリング、そして検査キット活用によるセルフチェック、健康三原則を基本にしたヘルスリテラシー教育への取組みでは、健康な心と体を維持向上していくことを支援し、万一、体調不良になった際は、速やかに適切な対応が取れる社会にすることです。

そういった活動にDXやAIによる新技術は大きな力になってきますし、**Well-being**の実現に向けて、**SDGs**は一体になったものと言えます。

以上の活動について、国民や関係する多くの方々にご理解とご協力を頂くためにも、これからの協会活動は、積極的なPRによる情報発信を行って参ります。ぜひ、本日、ここにご出席の皆様にはご支援お願い申し上げます。

## (10ページ)

次に、ここからは、今後の活動方針について大きく5つについてご説明をさせていただきます。まずは、アドバイザリーボードについてです。

第1回目のアドバイザリーボードは、今年2月に開催されたところですが、これからは、当協会だけではなく、国民、行政、医師会、歯科医師会、薬剤師会や健保連、ドラッグストア協会、アカデミア、マスコミの皆様との連携や協力を念頭に置いた活動を強化していきます。

そうすることで、独り善がりではない、広い視野や多くの知見から、国民の健康医療に貢献できる政策提言や活動へと発展させていきたいと考えています。

## (11ページ)

これは、今、ご説明しましたアドバイザリーボードを加えた当協会が関係している3つの会議体の位置づけや関係、活動を表した図になります。

当協会の戦略の中心は、この図の下に位置付けられていますOTC薬協の事業活動戦略会議になります。これは正副会長会社中心の役員が参加していて、毎月開催しています。そしてそこでの議論に基づき、必要なプロジェクトを発足させ、PJリーダーには、戦略会議の委員が付いています。

この会議体が中心になり、図の右上にあるアドバイザリーボードへの提案や議論に基づく対応を行なっています。

また、図の左上にあります立法府と関係省庁に対しても、戦略会議委員が中心となり、セルフメディケーション推進勉強会による議員や行政幹部との勉強会への提案や対応、更に厚労省のセルフケア・セルフメディケーション推進室など関係する行政担当窓口との交渉を行っています。

こういった会議体では、常に国民を中心に据えた議論を行なうことで、国民の健康医療に貢献する政策・制度・施策に繋げていきたいと考えています。



## (12ページ)

活動方針 2 つ目は、「OTC医薬品情報の提供サービス支援」になります。

これは、第 1 回目アドバイザリーボードで委員の皆様からの提案ですが、当協会ではできないものであり、重要課題として取組んでいきます。

OTC医薬品は、風邪薬だけ見ても、プライベート商品含めて百数十種類を優に超え、生活者は、自分の症状にどの製品が良いのか迷ってしまいます。

もちろん、そこには薬剤師や医薬品登録販売者など専門家の支援もありますが、まずは自分の症状にはどの製品が適しているのか手軽に知りたいというニーズは大きいと言えます。

そういった生活者のニーズに対応できるように、様々な情報サービスの事業会社で共通して使えるOTC医薬品の品目や成分ごと判別できる共通のcodeを設定し、おくすり検索だけでなく、電子おくすり手帳や医療用医薬品との関係、セルフメディケーション税制の申告など、さまざまな情報サービスや手続きで使えるOTC医薬品のプラットフォーム作りを支援していきます。

また、そういった情報サービスでは、AIなどの技術も取り入れることで、生活者の利便性を向上し、生活者が使って見たいくなるプラットフォームにしていければと考えています。

(13ページ)

3つ目が、OTC医薬品の品質と信頼性向上に向けた取組みです。

OTC医薬品はさまざまな疾病や症状の改善に効果を発揮するものです。

そこには品質、信頼性というバックボーンがなければ成立しません。

今、医薬品の品質問題には厳しい目が注がれています。会員各社と製造・品質管理体制および安全管理体制の一層の強化に取り組んでまいります。

また、現在、貧窮や孤独など社会的な問題と共にオーバードーズが取り上げられています。そういった誤った使い方を防いでいくためにも、当協会として情報提供の在り方を含めて、防げるものは速やかに対応していきたいと考えています。

OTC医薬品が本来の目的以外に使われることは、なんとしても防がなければならないことであり、教育機関や関係する皆様、薬剤師や医薬品登録販売者などとの連携のもと、ヘルスリテラシー教育であったり、様々な場面で、正しいOTC医薬品の使い方、薬の作用と副作用などについて普及啓発を強化していく所存です。

(14ページ)

4つ目に、広報活動の強化があります。

昨年まではコロナ禍ということもあり、マスコミの方々との直接対話が難しいことがあったため、当協会では、協会Webサイトを見やすく、使いやすいものへと全面リニューアル、及び協会の公式twitterを始めることでネットでの情報発信を強化してきました。

しかし、ニュースリリースと記者会見については、コロナ前の実績を見ても、年に数回程度と極めて少なかったというのが実状です。

コロナが収束してきた中、これからは協会活動について、国民をはじめとする関係者の皆様に積極的に情報発信を行っていくことで、皆さまの理解とご協力を頂けるように努めて参りたいと思います。

ぜひ、本日までご出席のマスコミの皆様には、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

(15ページ)

5つ目が、これまでご説明してきました今後の活動方針を包括して、来年度から、ポスト・グランドデザイン2025として「OTC医薬品産業Statement2030」を公表できるように準備して参ります。

前回は、10年計画のグランドデザインとして公表しましたが、昨今の変化の激しい社会情勢やAIの目覚ましい進化を鑑みて、今回は5年計画で実現していくStatementとして公表する考えです。

そして、Statementを実現するために、必要な政策や施策については、事業活動戦略会議を中心に協議し、傘下のプロジェクトや委員会、部会、ワーキングで政策等を具体化してStatementと共に公表できるようにしたいと思います。

以上のように、社会情勢に伴う国民ニーズの変化、そして新しい技術を取り込みながら、Statementを実現するために、毎年、PDCAを回し、適宜変化に対応しながら実現していくStatementとして公表したいと思います。

(16ページ)

最後に、今後の活動方針をまとめますと、さまざまな課題が山積する中で、優先的に取り組んでいくものが、この5項目になります。

これらの活動については、今後、順次、**News Release**や記者会見、協会**Web**サイトや公式**twitter**などで発信していきます。

ぜひ、マスコミの皆様にもご理解を頂きながら実現に向けて取り組んで参りますので、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

以上が、私からのご説明とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。